

第5回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会

日時：令和元年（2019年）8月26日（月）10:00～

場所：ウェルパルクまもと 1階大会議室

次 第

1. 開会

2. 議題

（1）前回会議の振り返り

資料1

（2）今回の検討事項

資料2

（3）基本理念について

資料3

（4）利活用・保全の方針と主要事業イメージ

資料4

（5）今後のスケジュール

資料5

3. 閉会

（配布資料）

- ・ 配席図、委員名簿
- ・ 資料1 前回会議の振り返り
- ・ 資料2 今回の検討事項
- ・ 資料3 基本理念について
- ・ 資料4 水前寺江津湖公園 各地区の利活用・保全の方針と主要事業イメージ
- ・ 資料5 今後のスケジュール

【協議会・部会の要旨】

第10回 アクティビティ・マネジメント部会（R1. 8. 19）

- ・これまでの議論の積み重ねが見えづらい。基本理念や基本方針とどう関連しているか分かるようにすべき。
- ・地名や電停名、希少生物や歴史文化資源など、基礎情報をきちんとプロットすべき。
- ・一方では、希少生物を明記すると、乱獲の懸念もある。
- ・環境保全エリアが単色だと、どこでも利活用で入っていいようにみえる。①保全エリア、②再生エリア、③共存エリア、④利活用エリアなど、3から4色に分けるべき。
- ・地区の線はなくした方がいい。環境保全や利活用、まちづくりは地区内に留まらず、周辺地域とつながっている。
- ・駐車場も問題。駐車台数や運営手法を再考したほうがいい。
- ・最近野良猫が増えている。生きものに影響を与えるので、現状を把握すべき。
- ・施策事業の歴史的背景もあった方がいい。近年の活動状況を網羅すべき。
- ・地区によってターゲットは違うので、そこを明確にすべき。
- ・ゾーニングは1つと限らず、季節や時間帯によって変わってもいいと思う。

第9回 環境部会及びアクティビティ・マネジメント部会（R1. 7. 18）

※ ワークショップ形式で、地区毎の施策事業（具体的取組み）について検討

第8回 アクティビティ・マネジメント部会（R1. 7. 5）

- ・現状、上江津と下江津の利用形態は違う。回遊性という観点で、移動手段があるといい。
- ・江津湖の持つポテンシャルを活かしきれていない。特に上江津。
- ・江津湖内だけでなく、周辺のまちづくりにつながることが大事。江津湖が賑わって、周りに波及することが理想的。
- ・駐車場が課題。増やすとイベント時にも対応できるが、人を制限するなら現状のまま増やさない方がいい。また、有料化にして維持管理費に回すという考えもある。
- ・ターゲットを誰にするのか。江津湖を一くくりで考えるのではなく、エリアで分けて考えるといいと思う。
- ・“江津湖へのアクセス改善”を施策の一つにすべき。
- ・園内の回遊性向上のために、電動キックボードやe-BIKEの導入など、熊本でしかできないモビリティがあると魅力の向上やアピールにもつながる。
- ・人が来ないと環境保全にもつながらない。

第4回 協議会（R1. 6. 7）

- ・基本理念について、「持続可能性の継承」という表現が分かりづらい。
- ・江津湖は身近な生きものと触れ合うことができる場所なので、希少生物だけを強調するのではなく、在来生物として全体を表現していただきたい。
- ・外来生物について、新たなものを出さない、出てもすぐ対処するということを、今回の計画を機にしてもらいたい。
- ・地下水は、流域のつながりがあって湧水しているので、上流域についてきちんと明記して

いただきたい。また、水田の役割ということもぜひ入れていただきたい。

- ・自然環境については、ホテルについても明記してほしい。
- ・「社交」は一つのキーワードになると思うので、歴史の中で御茶屋が当時の社交の場であったということを補足してほしい。
- ・これまで行った浚渫について、その効果や影響についても整理したほうがいい。
- ・基本方針が7つあるが、それぞれ土台となるものと連携するものがあるので、計画策定に向けては整理したほうがいい。
- ・市民意見の聴取について、江津湖を利用される方にも聞いてほしい。その際、人が大勢いるときの利用者と、人が少ないときの利用者のそれぞれから聞いたほうがいい。
- ・小学生と大学生だけでなく、中学生や高校生からも意見を聞いたほうがいい。

第8回環境部会、第7回アクティビティ・マネジメント部会 合同部会（R1. 5. 24）

- ・歴史については深く整理されているが、環境については抜けている。
- ・外来生物の問題と江津湖が本来持っていた環境というのは、密接けどイコールではない。
- ・基本理念だけをみると、どこでも通用する用語のような気がする。“水”というキーワードが出ないと、江津湖と他の差別化は図れないと思う。
- ・基本理念のイメージ図は、基本理念と基本方針の橋渡しをするものでなければならない。
- ・“阿蘇・白川流域”は正式な表現に修正した方がいい。
- ・観光客を対象にヒアリングするなら、外国人だけでなく日本人も対象としてほしい。
- ・江津湖をいかに活用し未来へ残していくかに、ビジターセンターの役割は大きいと思う。
- ・江津湖といえば“水”。庄口の経緯や地下水保全条例、地下水保全都市宣言など、水については基本理念に強く謳ってほしい。

第7回環境部会、第6回アクティビティ・マネジメント部会 合同部会（H31. 2. 4）

- ・広木地区の西側も保全ゾーンとし、モデル的に多様な環境がある空間を目指していきたい。
- ・庄口地区を、地下水保全の重要なゾーンということを明記すべき。また、電車通りを挟んだ北側も、環境のネットワークからするとすごく大事な場所。
- ・出水地区に“希少動物の巣づくり”とあるが、それを見せると希少動物はいなくなる。
- ・環境保全を行うのは全体。特に配慮すべきところのみを着色し、意味を強くした方がいい。
- ・江津湖の持つ価値は「湧水による土地利用の痕跡」に尽きると思う。市民の多くは江津湖が人工湖であるとは知らないと思うので、その成り立ちや価値についても触れてほしい。
- ・江津湖の環境は人の手が加わってきたから維持されてきた。長期的な視点では、今後も人の手を入れていくことが大事。
- ・湧水ポイントはたくさんあるが、それらが見せることができる場所なのか確認が必要。
- ・江津湖の魅力向上に資する利活用も必要だが、環境保全とのバランスが大事。
- ・意見聴取を行うにあたり、対象次第ではオープンで意見を聞くのではなく、きちんと江津湖の現状を理解してもらった上で実施した方がいい。

第6回環境部会、第5回アクティビティ・マネジメント部会 合同部会（H31. 1. 17）

- ・ゾーニングの環境保全を優先するエリアについて、なぜそこが重要なのかしっかりと整理

し、設定する必要がある。

- ・湧水ポイントについて、水辺にコンクリートが張られて出なくなってしまったところを確認することも必要と思う。
- ・水際域について、環境保全エリアだけではなく、再生できるエリアというのもあると思う。
- ・トイレを快適に使用できるようなデザインは必要であると思う。(ユニバーサルデザイン、環境保全型など)
- ・江津湖のマップ(トイレ、遊び場、生きものなど)を周辺施設に配ると、例えば広木地区から上江津地区に行くといった公園内の繋がりが出てくるのではないかなと思う。
- ・異なるゾーニングの接点、全体の一体感についてゾーニング図で示すことができればよいと思う。(水前寺地区と出水地区の連携など)
- ・ゾーニングについて言葉で書いてあるが江津湖を知っている方以外の方にも分かるように具体的に何をするとどこか明示した方がいいと思う。
- ・水前寺地区と出水地区間の電車通り下の川を子ども達が魚をとって歩いて、うまく遊びの場所に変えることができると江津湖へのアプローチが広がると思う。
- ・「再生」と「アクティビティ」を絡ませることができるエリアがあってもいいと思う。
- ・公園を訪れてみたくなるネーミングが必要だと思う。(人の暮らしの延長として想像できるようなもの)
- ・江津湖周辺で無農薬(水を守る)の農産物をつくっている農家さんと連携していくこともよいのではないかな。
- ・外来魚の「食品化」という施策事業は難しいと思う。
- ・外国人観光客の受け入れについて、何を目的に、どれくらいの規模で受け入れるかを決めた上で整理した方がいいと思う。

第3回 協議会 (H30. 11. 28)

- ・児童公園のトイレを再整備するにあたり、現在狭いところにあるので、移動してつくられる場合は住民の声を取り入れてほしい。
- ・児童公園の園路は高木がある関係上、少し暗いので通路を明るくしてほしい。
- ・ドッグランの整備について、野生生物がその場から消えてしまうのではないかなと思うので、できればやめてほしい。
- ・マイクロプラスチックの問題をおさえることは大切だと思う。
- ・江津湖の水生生物を展示した水族館みたいなものがないかな。
- ・人材、新企業、担い手のところがどういう形でいくのか、また財源の確保についてが心配な点だが、地域連携で少し工夫をすれば維持管理能力、マネジメントの面で地元の団体は大きく貢献できるのではないかなと思う。
- ・バーベキューについては、可能な場所と時間帯を指定したとしても、それをきちんと管理することは難しいのではないかなと思う。
- ・動植物園の中の環境を上手く活用し、自然環境の勉強の場として使わせていただければ素晴らしいのではないかなと思う。
- ・サイクリングロードや駐車場の整備は人間の活動ということでは大事な部分かもしれないが、人が利用しやすくなると生きものがそこから消えてしまうと思う。特に水辺は生きも

のの生育にとって大事な場所であるので、人間が行きにくい場所も残していただきたい。

- ・パワースポットを考えるならば、“水”だと思うので、湧水スポットを物語的につなげていくとよいと思う。

第4回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 11. 21）

- ・江津湖の生物（鳥、植物）、歴史について勉強できる場があるといい。
- ・リピーターの確保、ツーリズムの発想が必要。
- ・駐車場の有料化という考えは環境保全の観点からも必要。
- ・回遊性の向上という面で、船で神水あたりまでいくような取組みもほしい。
- ・バーベキューにはゴミの問題と環境の問題がある。主催者側はゴミ1つ残さない。むしろきれいにしていくといった事例もある。
- ・外来魚対策において、釣り人と協力できる施策が何か考えられないか。
- ・屋形船のカフェ（船上カフェ）は良い。
- ・バーベキューは利用時間やルール設定が必要。
- ・パーク PFI は単に民間ではなく周辺住民・商店街とかと WinWin にならないといけない。
- ・マーケティングによるブランド化という視点はあがるが、施策事業が入っていない。
- ・ブランド化していくための価値の整理が必要。

第5回 環境部会（H30. 11. 19）

- ・計画策定の背景および基本理念の表現を分かりやすくしてほしい。（レジリエント、上質など）
- ・園内の回遊性向上について、生きもの優先のエリアやゾーニングとも関係するため、アクティビティ・マネジメント部会との調整が必要だと思う。
- ・基本理念について、環境部会とアクティビティ・マネジメント部会の方針に沿う江津湖のイメージを皆で共有できるような表現がどこかに入るとよいと思う。
- ・基本方針①「豊かな水環境の保全」の施策事業について、行政だけの取組みではなく、市民レベルの取組み（生物調査など）も載せてほしい。
- ・施策事業については、課題、目的、対象者、目標を明確にして考えるべき。
- ・外来植物の駆除について、ボランティアの人集め、処分方法が課題である。
- ・庭園と周辺景観の統一が今後の課題だと思う。
- ・ビジターセンター（仮）として活用できそうな公共施設を教えてほしい。
- ・ビジターセンター（仮）については、その機能や人員配置などをよく検討する必要がある。

第4回 環境部会（H30. 11. 6）

- ・情報発信が各分野で出ているので、まとめるなり分けるなりきちんと整理した方がいい。
- ・生物多様性の保全において、外来種と希少種を含む在来種の対策は分けて考えるべき。
- ・江津湖の再整備で植樹する場合は、その樹種について十分検討してほしい。
- ・ビジターセンター（仮称）については、持たせる機能や体制等を十分考慮すべき。その上で、設置する場所や規模等について検討しなければならない。
- ・基本理念とは別に、市民に親しみやすいキャッチコピーがあるといいと思う。

第3回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 10. 24）

- ・江津湖の魅力は“水”“生き物”という環境が根本であり、この部分に関しては環境部会で議論をしていただき、それをどうアクティビティ・マネジメント部会がサポートしていかるか、活動につなげていけるかということが大事になると思う。
- ・江津湖の遊歩道に距離の表示板を提示し、所々に筋トレやストレッチができる健康器具を設置すると、色々な健康プログラムを考えられるのではないか。
- ・環境あつての江津湖なので、カルテの作成においては環境部会ともしっかりと共有ができているものでないといけない。環境部会での意見を踏まえて作成した方がいいと思う。
- ・“水の聖地”“パワースポット”のようなところが江津湖にもあればいいと思う。
- ・江津湖の歴史文化について詳しく熱意のある方からガイド受けると、江津湖にもっと興味を持つ方が増えると思う。
- ・江津湖において早朝運動した後に、朝ごはんを食べられるカフェなどがほしい。

第2回 協議会（H30. 10. 10）

- ・外来種駆除のための防除計画をきちんと定める必要がある。
- ・江津湖にある句碑を観光に結びつけることはできないか。
- ・江津湖にある句碑と県立図書館を結びつけるようなルート（文学歴史ルート、学習ルート、環境ルートなど）をつくるとよいのではないか。
- ・外来種駆除において各団体が取組んでいるものを取りまとめて一大イベントとしてやるとよいのではないか。
- ・外来魚に対する条例についての周知方法を考える必要がある。
- ・学校教育の中で子ども達に啓発をしたり、子ども達を主役にするような江津湖のキッズクラブみたいなものをつくり、観察会を地元の校区に根ざした小学校や中学校が組織だってやっていけるといいと思う。
- ・公園内でバーベキューなど火気使用が可能な場所を設けることができないか。
- ・専門職の方が実際に現場を見て、そこで意見を出した方がより具体的になるのではないか。
- ・キーワードとして湧水エリアの保全という言葉も必要であり、看板においては設置位置や有り様について検討してほしい。
- ・水前寺地区から広木地区までの一体感を持たせるためのトータルのデザイン計画が必要ではないか。
- ・外来魚駆除において優先順をつけて、種類を絞って対策を行うとよいのではないか。
- ・イベントガイドライン作成において、人数と頻度を目指すことはやめてほしい。生き物たちにも目を向けて作成をしてほしい。
- ・イベントガイドラインの作成においては慎重に進めていってほしい。
- ・意見聴取を行うにあたり、“そのままでもいい”“変えないでほしい”という意見も大事にしてほしい。

第3回 環境部会（H30. 9. 28）

- ・水環境については、流域のつながりも重要なのできちんと明記してほしい。

- ・自然と人とのバランスが重要。いかに共存・共生を図っていくかが大事。
- ・人が立ち入ることによって生物にどう影響するか明記してほしい。
- ・環境部会としては、生き物にとっても誇れる空間づくりを目指していきたい。
- ・目標に“歴史・文化”をきちんと明記し、文化的資源の活用策についても考えていきたい。

第2回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 9. 25）

- ・江津湖の生き物を対象にした水族館を整備して、子ども達が江津湖を知るきっかけをつくってはどうか。
- ・江津湖を利用したスポーツイベント（マラソンや水上スポーツなど）や健康に関するイベントをしてはどうか。既存イベントのいくつかでも江津湖を会場にしたりすることもあるのではないか。例えば、熊本城マラソンコースの一部にしてみてもどうか。
- ・ネーミングライツを行って、トイレをきれい（和式→洋式）に保つことがあってもいいと思う。
- ・江津湖で気軽に行うことができる運動をリスト化した“アクティビティリスト”のようなものを作成すると、江津湖の魅力発信につながるのではないか。
- ・昔に比べると水深が浅くなり、ヘドロも堆積している。
- ・浅くなっている箇所の浚渫はできないか。
- ・砂取庭園や芭蕉苑あたりは詳しい方がいないと周れないので、地図か何かあるとよいと思う。
- ・ヨシが増えると湖が沼に変わるとも聞いたことがあるので、除去ができないか。
- ・適正な管理を行うために、施設の集約や減築を考える必要があるのではないか。
- ・“水”をアピール・発信する上では、マーケットによるブランド化の視点が必要である。
- ・目指すべき方向性については、誰がどのような体制で行っていくのか、今後明確にしていける必要がある。
- ・プレイヤーが必要となる。例えば大学で会社をつくって、そこから民間に営業をかけていくような仕組み。

第2回 環境部会（H30. 8. 24）

- ・水環境の保全については、現在の取り組みの継続や発信をすることが重要である。
- ・江津湖の環境に関する調査が不足しているので、過年度のデータの集積・整理をした上で、必要な調査を行う必要がある。
- ・外来生物については、江津湖における調査結果をもとに、現況の把握や効果の検証を行わなければ駆除は難しいと思う。
- ・江津湖の歴史・文化と自然環境を融合させるようなものがあると、より魅力の発信につながると思う。
- ・江津湖に関する情報の集積や発信の場として、ビジターセンター（仮）の設置が望ましい。
- ・江津湖は、自然環境と人間活動が共存・共生している場所で、完全にゾーン分けすることは難しいので、環境に配慮すべきゾーンとして情報を提供することも大事。

第1回 アクティビティ・マネジメント部会（H30. 8. 6）

- ・アクティビティに関することも環境保全優先に考えていく必要がある。

- ・「今のままが一番よい」という意見も大事にする必要がある。
- ・余裕をもって維持できるような仕組みづくり（持続可能な維持管理システム）が求められている。
- ・江津湖に関わる方々の組織化、人材育成によって、大きな力が生まれるのではないか。
- ・マナー問題（飛び込み等）への対応が必要である。
- ・看板がない公園を目指すとか、今の技術等で公園を面白くしていく考え方もある。
- ・わかりやすい言葉で、魅力と改善するところを整理するなど、整理の仕方の工夫が必要である。

第1回 環境部会（H30. 7. 23）

- ・まずは長期的な目標を固めて共有すべき。その上で、短期・中期の方策を考える必要がある。
- ・環境と文化は一つの塊。環境と文化のバランスを図っていく必要がある。
- ・江津湖の環境に関する基本情報が足りない。江津湖を保全する上で必要なものは今回を機に調査する必要がある。
- ・人間活動により自然が追いやられている。例えば、人間活動を受けやすいカヤネズミの活動範囲が狭まっているので、ヨシを復活させたり、自然ゾーンと人間ゾーンを分けたりして、自然と人間の共存を図るべき。
- ・江津湖で活動する誰もが必要とする“水”を大事にすべき。
- ・緑化フェアでは、各団体において自然観察会を実施し、熊本の自然を知ってもらう契機にするといい。

第1回 協議会（H30. 7. 4）

- ・部会以外の委員意見の反映はどうか。
- ・外来生物において今出てしまったものの対策だけではなく、新たに出さないという部分も強化して欲しい。
- ・護岸工事や夜間照明を行う場合には、生物たちのことをよく理解した上で行う必要がある。
- ・シードバンク（埋土種子）を活用した河岸植生の復元も必要である。
- ・今年はないが、藻を少なくしていくような対策をお願いしたい。
- ・もともとの自然に戻すエリアも必要である。（ゾーニング）
- ・江津湖の主役は「水」であり、生き物だけでなく、水も共に取り戻すような取り組みが必要である。
- ・外来種の駆除は、計画的、継続的に行っていく必要がある。
- ・江津湖をきれいにする取り組みは、行政だけでは難しいものがあるので、地域と協力して取り組まないといけない。
- ・水前寺から江津湖にかけては、ひとつのまとまった熊本が誇れる文学ゾーンであり、文化的視点を大事にして欲しい。
- ・計画には、サステナブル性が必要であり、地域の方々の参画といった視点が大事になる。
- ・協議会の進め方（事前資料配布など）について検討して欲しい。